

エコアクション21

環境経営レポート

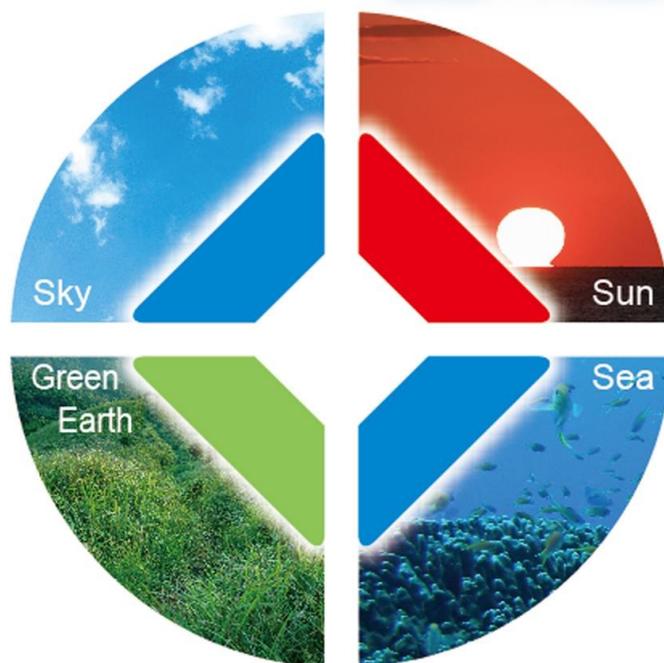
対象期間: 2022年4月～2023年3月

Nippon Housou System の願い

Nature 自然にやさしく……

Human 人が豊かに……

Smiles そして笑顔に!



発行日 2023年 8月 16日
作成者 飯塚 宣人

目次

表紙	P1
目次	P2
Ⅰ. 会社概要・事業内容	P3
Ⅱ. 環境経営方針	P4
Ⅲ. 環境経営活動実施体制	P5
Ⅳ. 環境経営目標	P6
Ⅴ. 実績	P7 ~
Ⅵ. 次年度の活動計画	P12 ~
Ⅶ. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P14
Ⅷ. 代表者による全体評価と見直しの結果	P15

I. 会社概要・事業内容

(1) 事業者名及び代表者名

日本包装システム 株式会社

代表取締役社長 池畠 正英

(2) 所在地

本社工場 〒379-2153 群馬県 前橋市 上大島町 182

共同工場 〒379-2154 群馬県 前橋市 天川大島町 1310-4

(3) 環境管理責任者及び事務局

EA-21責任者： 管理部 飯塚 宣人

EA-21事務局： 管理部 小宮 由香利

連絡先 TEL： 027-261-4455

FAX： 027-261-4456

E-mail： n.iiduka@nhs-1972.co.jp

(4) 事業活動の内容

紙製容器・包装資材の開発、製造および販売

(5) 事業規模 (2022年度)

主要製品の生産量： 1035 t

売上高： 639百万円

資本金： 6,000万円

従業員数： 44人

延べ床面積： 3,715.03㎡

(6) 対象範囲 (認証・登録範囲)

上記 (2) に該当する所在地と (4) に該当する活動内容

II. 環境経営方針

環境経営方針

日本包装システム株式会社は、私たちの未来のため、
循環型社会の実現と環境負荷の低減を推進します。

1. 当社は事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、環境目標・環境活動計画を定め全員参加で継続的な改善に努めます。
2. 環境関連の法令、規制を遵守するとともに、行政・団体・地域との協力体制を確立します。
3. 当社は環境に与える影響を考慮し、次の事項に対して優先的に取組みます。
 - ① エネルギー使用量・水資源使用量の削減
 - ② 廃棄物の削減とリサイクルを目的とした分別回収
4. 当社は文化的生活の向上と環境負荷低減の両立を目指し、安全で効率のよい生産活動を追求します。
5. 社会の一員として環境保全に関する啓蒙・啓発に努めます。

この環境方針は当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

2009年4月1日
改定日 2016年4月1日
改定日 2018年4月1日

日本包装システム株式会社

代表取締役社長

池島正英

Ⅲ. 環境経営活動実施体制

代表者(社長)	1. 環境経営方針の策定 2. 経営資源の準備
池畠 正英	3. 代表者による全体の評価と見直し 4. 環境経営レポートの承認 5. 環境目標及び環境経営活動計画の承認 6. 経営における課題とチャンスの明確化

	人員
役員	2名
管理職	6名
一般	27名
パート・人派	9名
合計	44名

2022年4月現在

EA-21責任者	1. EA-21システムの確立、実施推進、維持管理 2. 環境への負荷及び取組への自己チェックの実施
飯塚 宣人	3. 環境経営目標及び環境活動計画の策定 4. 環境経営レポートの作成 5. EA-21に関する実績把握と報告 6. EA-21環境経営マニュアルの作成

製造部	田島 和憲	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置
営業部	小貴 敦	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置
品質管理部	森 克美	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置
管理部	高橋 正利	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置

EA-21委員会	
委員長：池畠 正英 飯塚 宣人・小宮 由香利・竹内 恵子 松本 宏志・蒔苗 徹・鈴木 寿晴・岡田 美幸	1. 環境経営目標及び環境経営活動の結果確認 2. EA-21に関する審議

EA-21事務局	1. EA-21責任者の補佐業務 2. 環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況確認 3. 教育、訓練計画の策定・実施（緊急時対応訓練 等）
小宮 由香利	4. 環境文書及び記録の作成、管理 5. その他EA-21に関する業務

IV. 環境経営目標

当社の環境目標の設定は、2020年度のデータを基準として2021～2023年度の目標といたしました。

「燃料使用量の削減」については本社工場・共同工場扱いにてそれぞれ車輛を区別、工場別に実績管理をしていましたが、2021年度より本社工場一括の管理となり、工場別の数値を合計して算出、表示しています。

「化学物質使用量の削減」については年間使用量が少ない為、定期的に管理状況・保管状況の確認を「薬品保管管理表」にて行っていきます。

「グリーン購入の推進」については、「自らが生産・販売・提供する製品、及びサービスに関する環境目標」内に統合して継続して活動してまいります。

取組項目	2020年度実績		2021年度	2022年度	2023年度
電気使用量の削減	本社	CO2換算 3.27kg/万円	1%削減	1%削減	1%削減
	共同	CO2換算 2.29kg/万円			
燃料使用量の削減 営業車使用燃料 (ガソリン・軽油)		CO2換算 0.297kg/万円	2%削減	2%削減	2%削減
廃棄物の削減 ① (古紙回収)の削減	本社	一万円あたりの使用量 4.38kg/万円	実績維持	実績維持	実績維持
	共同	一万円あたりの使用量 6.94kg/万円			
廃棄物の削減 ② (廃プラ)の削減	本社	一万円あたりの使用量 0.065kg/万円	実績維持	実績維持	実績維持
	共同	一万円あたりの使用量 0.049kg/万円			
廃棄物の削減 ③ (鉄・ガラス・その他)の削減	本社	一万円あたりの使用量 0.028kg/万円	実績維持	実績維持	実績維持
	共同	一万円あたりの使用量 0.006kg/万円			
水資源使用量の削減	本社	一万円あたりの使用量 0.012m ³ /万円	実績維持	実績維持	実績維持
	共同	一万円あたりの使用量 0.010m ³ /万円			
自らが生産・販売・提供する製品、及びサービスに関する環境目標	次年度の活動計画にて掲げた施策の実行と継続				
化学物質使用量の削減	_____		_____	_____	_____

V. 実績

環境目標に対する達成状況は以下の通りです。

- ※1. 実績値は、2021年度運用期間(4月～3月)の1年間と、基準年度2020年度の同月の値と比較する。
- ※3. 総量は4月から3月の1年間の合計とする。
- ※4. 単位は、売上金額1万円当たりの使用量とする。
- ※5. 購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数は0.484。
- ※6. ガソリンの二酸化炭素排出係数は2.32。
- ※7. 軽油の二酸化炭素排出係数は2.58。

実績 一覧

本社工場	2020年度基準値	2022年度実績値	達成率	結果
電気使用量の削減	3.27kg/万円	2.68kg/万円	122.01%	○
燃料使用量の削減	0.297kg/万円	0.165kg/万円	180.00%	○
廃棄物(古紙回収)の削減	4.38kg/万円	4.05kg/万円	108.14%	○
廃棄物(廃プラ)の削減	0.065kg/万円	0.049g/万円	132.65%	○
廃棄物(鉄・ガラス等)の削減	0.028kg/万円	0.015kg/万円	186.66%	○
水資源使用量の削減	0.014m ³ /万円	0.011m ³ /万円	127.27%	○

○ 達成 × 未達成

共同工場	2020年度基準値	2022年度実績値	達成率	結果
電気使用量の削減	2.29kg/万円	1.64kg/万円	139.63%	○
廃棄物(古紙回収)の削減	6.94kg/万円	5.30kg/万円	130.94%	○
廃棄物(廃プラ)の削減	0.049kg/万円	0.032kg/万円	153.12%	○
廃棄物(鉄・ガラス等)の削減	0.006kg/万円	0.029kg/万円	20.68%	×
水資源使用量の削減	0.010m ³ /万円	0.007m ³ /万円	142.85%	○

主な環境負荷実績(総量)

環境への負荷	2020年度(基準年)	2022年度(対象年度)
Co2排出量(Kg-Co2)	147,877	138,713
廃棄物排出量(t)	240	250
水使用量(m3)	567	541

電気使用量の削減

計画(本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(8月)	◎	継続	新型コロナウイルスの感染対策を講じながらの生産活動、夏場の猛暑によるエアコン稼働増と、使用量増加の要因は多々ありましたが、生産量と売上金額が基準年比で大幅増加となった為、目標値を達成する事が出来ました。
未使用の電気、電源のOFF	○	継続	
エアコン温度の設定	○	継続	
トイレ便座の温度設定	○	継続	
空調フィルターの定期清掃	◎	継続	
デマンド監視装置の活用	△	継続	

◎良くできた ○出来た △あまり出来なかった ×出来なかった

燃料使用量の削減

計画(本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(2月)	◎	継続	基準年度よりも使用量は大幅に減少となりました。基準年度に多かったトラックでの遠隔地への納品が減少し、運用方法が変化した事が使用量減少の大きな原因の一つと考えます。
燃料使用量・走行距離チェック	◎	継続	

廃棄物(古紙回収)の削減

計画(本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(5月)	◎	継続	基準年度よりも本社は廃棄量が増加、共同工場は減少となりましたが、本社工場は前年度比では減少となりました。2020年度と比べてアフターコロナの仕事内容が変化したことで、廃棄量も大きく増加へと転じています。
分別廃棄の継続	○	継続	
私物ゴミ持ち帰りの徹底	◎	継続	
調整時ロスの削減	○	継続	
ロスの早期発見と対応	○	継続	

廃棄物(廃プラ)の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(10月)	◎	継続	廃棄マニフェストは電子化実施。 ストレッチフィルム廃棄量の増加傾向は変わりませんが、前年比では減少しています。 ブランクで納入される場合のストレッチフィルムの巻き方や巻く回数減の依頼効果と考えます。
資源ゴミと一般ゴミの分別の徹底	◎	継続	
ブランク納入時のプラパレ化依頼	◎	継続	

◎良くてきた ○出来た △あまり出来なかった ×出来なかった

廃棄物(鉄・ガラス等)の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(10月)	◎	継続	木製パレット・木くずの処理は問題なく対応出来ています。 蛍光灯の廃棄管理に関しては廃棄場所設定後、廃棄と管理が出来ています。 打抜面盤の廃棄は今年度は両工場共に一定数あり、増加しました。
木製パレット・木くずの適正処理	◎	継続	
廃棄蛍光灯の管理徹底	◎	継続	

水資源使用量の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(12月)	◎	継続	本社工場は基準年度よりも使用量増加となりました。原因としては年4回の工場内大掃除による、水使用の影響も考えられます。 共同工場は逆に減少に転じていますが、節水意識向上による効果は大きな要因と考えます。
節水継続意識向上の継続	◎	継続	
手洗い・糊つぼ洗い時に水を止める。	○	継続	
本社 成型工場、共同 2階洗い場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更(検討)	×	継続	

環境保全取組実施率の向上

① 管理者・従業員の教育

- ・毎月初日に全社員が集まる全体ミーティングを実施しています。
- ・全体ミーティング内ではエコアクション活動の発表の他に、生産技術課による技術向上を目的とした取り組みを発表しました。



<全体ミーティングの一例>

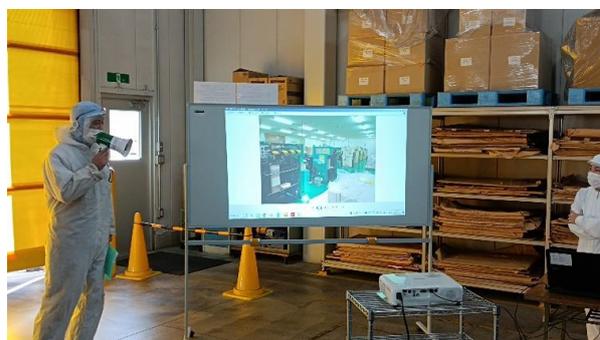


<生産技術課の発表の様子>

- ・アース環境サービス社様による「現場における異物混入対策」の講習を実施。(6月)
- ・安全・衛生委員会による業務中における事故発生の予防を目的とした取り組み(工場内の見廻りと危険個所の発見、その対応)を発表しました。(7月、1月)



<講習の様子>



<安全・衛生委員会の発表の様子>

- ・昨年に続き、9月1日に実施予定であった避難訓練(火災を想定)は、新型コロナウイルスによる集団感染を避ける為に実施出来ず、代替として「防災について3つのポイント」と、災害が発生した場合の対応と避難活動時に注意すべきポイントなどを説明しました。また、「ゲリラ豪雨」や「線状降水帯」、「台風の大型化」などの発生時の危険性や対応ポイントなどについてもレクチャーしました。年に1度ではありますが、こうした機会を使って反復性を持って情報の伝達を続ける事が重要であると考えます。更に「新型コロナウイルス」に対する現状での取り組みについて説明しました。社会全体が「ウィズコロナ」への流れへと変化している事と、そうした中での感染対策への取り組みが一層重要になる事や、ワクチン接種有料化の情報などを共有しました。
 - ・11月の全体ミーティングでは、エコアクション21の活動内容や理念などを分かりやすく説明しました。社員ごとに活動内容の理解度にバラつきが出ないように、定期的に行う必要があります。また、今年度も「SDGs」について理念や内容、取り組みについて説明を行いました。エコアクション21での活動は最終的には「SDGs」に繋がっている事を全社員にレクチャーし、共通の認識としてもらいました。
- ② その他、入口に「アイドリングストップ」の表示をして、当社出入りの業者さんに対して環境保全活動の協力依頼をしています。

その他の環境への取り組み事例



① 本社工場 打抜き機械を入れ替え



② 本社工場 照明をLEDに交換



③ 共同工場 コンプレッサー2台を入れ替え



④ 共同工場 1階エアコン2台を入れ替え

★2022年度に行った環境への効果が見込める取り組み★

- ① 本社工場 打抜き機械を入れ替え (省電力化)
- ② 本社工場 照明をLEDに交換 (省電力化)
- ③ 共同工場 コンプレッサー2台を入れ替え (省電力化)
- ④ 共同工場 1階エアコンを入れ替え (省電力化)

FSC® COC認証の取得

「FSC COC認証」を2018年3月9日に取得後、さまざまなFSC認証製品を生産してきましたが、今年度初めて認証更新審査を受け、無事に更新となりました。得意先からの問い合わせと受注も順調に増えてきています。今後もエコアクション21の活動同様に、環境へ配慮した製品の生産を継続して行っています。

＜弊社FSC認証情報＞

認証登録番号 : SA-COC-006218
 ライセンス番号 : FSC® C140095
 認証発行日 : 2023年3月9日 (2018年3月9日に認証取得)
 有効期限 : 2028年3月8日



Certificate of Registration

This is to certify that
NIPPON HOUSOU SYSTEM CO., LTD.
 日本包装システム株式会社
 has been certified in accordance with the requirements of the Forest Stewardship Council® A.C. using the FSC® Chain of Custody standard and that NIPPON HOUSOU SYSTEM CO., LTD. of
183 Kamiohimamachi, Maebashi-shi, Gunma, 379-2153, JAPAN
 is hereby licensed to use the FSC Logo on and sell as FSC certified all products listed on the attached FSC product schedule as FSC Mix.
 Certificate Registration Code: **SA-COC-006218**
 Issue Number: **14**
 Licence Code: **FSC-C140095**
 Issued By: **Soil Association Certification Limited**
 South Plaza, Marlborough Street
 Bristol, BS1 2BE
 United Kingdom
 Issue Date: **9 March 2018**
 Valid until the Renewal Date: **8 March 2023**
 Signed on behalf of Soil Association Certification: *Kevin Jones*
 Kevin Jones, Head of Forestry



化学物質使用量の削減

定期的(7月・11月・3月)に保管場所と管理方法の確認を行いました。

VI. 次年度の活動計画

当社は、環境への負荷を低減するために、以下の活動を実施していきます。

(1) 電気使用量の削減

- ・未使用の電気、パソコンモニタの電源OFF
- ・エアコンの適正な温度設定
- ・トイレ便座の温度設定(夏季：OFF、冬：ON)
- ・空調フィルターの定期清掃
- ・デマンド監視装置活用によるピークカット
(季節ごとに1時間毎に数値を測定)
- ・電気管理業者のサポートによる使用電力削減
- ・電気使用量の削減の取り組み発表(8月)

(2) 燃料使用量の削減

- ・燃料使用量・走行距離チェック(3カ月毎)
- ・燃料使用量削減の取り組み発表(2月)

(3) 廃棄物の削減(古紙回収)

- ・分別廃棄の継続(本社工場・共同工場)
- ・私物ゴミ持ち帰りの徹底
- ・不良率の削減
調整時ロスの削減
ロスの早期発見と対応
- ・不良率低減の取り組みを発表(5月)

(4) 廃棄物の削減(廃プラ・鉄・ガラス他)

- ◎廃プラ/鉄/ガラス他 共通事項
 - ・資源ゴミと一般ゴミの分別の徹底
(一般ゴミ内の資源ゴミ混入防止の徹底)
 - ・廃棄物の削減の取り組みの発表(10月)
- ◎ガラス他
 - ・使用済み蛍光灯の廃棄・管理の徹底
 - ・ブランク納品時、プラパレでの納入を依頼

(5) 水資源使用量の削減

- ◎本社工場
 - ・節水意識向上の継続
(手洗い・糊つぼ洗い時に水を止める)
 - ・成型工場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更検討
- ◎共同工場
 - ・節水意識向上の継続
 - ・2階手洗い場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更検討
 - ・水資源使用量削減の取り組み発表(12月)

(6) 環境保全取組実施率の向上

- ・毎月1日に全体ミーティングにてEA21の取り組み発表や環境教育等を実施
- ・部門別責任者と担当者の発表、年間スケジュールの発表 (4月)
- ・アース環境サービス社様による「防虫・衛生・品質関連」の講習を予定 (6月)
- ・避難訓練「火災防火訓練」 (9月)
- ・セミナー(内容未定)の実施 (11月)
- ・施策の成果と反省 (3月)

(7) 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境目標

- ・新製品の設計を行う際に効率的で無駄の少ない割り付けを心掛け、原紙のロスを軽減します。
- ・新製品を生産する際に、環境に配慮した材質、リサイクルが可能な材質の使用を心掛けます。
- ・グリーン購入の推進。

(8) 化学物質使用量の削減

- ・保管と管理の確認(7月・11月・3月)を定期的に行います。

Ⅶ. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は下表の通りです。
 また、関連法規制の遵守状況確認を毎年2回実施しており、違反はありませんでした。
 地域住民からのクレームもありませんでした。
 同様に関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありませんでした。

主な適用法規	当社の対応	遵守状況
廃棄物処理法 循環型社会形成推進基本法 群馬県環境基本条例 群馬県の生活環境を保全する条例 前橋環境基本条例	廃棄物の削減 廃棄物の適正処置の確保 産業廃棄物保管基準遵守 廃棄物の飛散・流出・地下浸水の防止 産業廃棄物処理委託基準の遵守 産業廃棄物の委託契約書の記載事項の遵守 産業廃棄物管理票の管理義務	遵守確認済
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	廃棄時の引き取り業者への 引渡し料金の支払い	本年度廃棄無し
消防法(危険物関連) 前橋市火災予防条例	少量危険物貯蔵所設置の届出 基準在庫管理	基準在庫以下確認
容器包装リサイクル法	毎年度、その生産量に応じて 再商品化義務量の再商品化	遵守確認済
下水道法	排水基準の厳守	排水基準量以下 確認
CSR(社会的責任)調達 (取引先企業3社)	エコアクション21に適応	遵守確認済
騒音規制法	特定施設設置届出書の提出	遵守確認済
振動規制法	特定施設設置届出書の提出	遵守確認済
フロン排出抑制法	該当設備を管理者により定期点検 廃棄時の回収業者への引渡し	実施済 本年度廃棄無し

Ⅷ. 代表者による全体評価と見直しの結果

2022年度は新型コロナウイルスが蔓延してから3年目の年でありました。感染者が一定の周期で増減する中で新しいスタンダードが確立された時期かと思えます。経済活動は止めずに対応していく業種が増え、あらゆる面で回復が期待されておりましたが、新たなリスクとして原材料価格、電力費をはじめとするエネルギーコストの高騰が現実のものとなってしまいました。これにより今まで進めてきた「環境への取り組み」の真価が試されることとなりました。

基準年と比較すると売上・生産量ともに増加していますが、実績使用量の増加は少なく、ほぼ全ての削減目標を達成出来たことは評価できます。特に燃料使用量や共同工場の電気使用量、各廃棄物の削減で成果を上げることが出来ました。エアコン、その他機器の入れ替えによる効果もありますが、仕事内容の変化に対する的確な対応がなされたという印象があります。チェックリストの評価点を大きく引き上げることは出来ていませんが、重要な項目の改善が着実に進められていると思われまます。

取組むべき方向性

昨年より設備投資の長期計画を再構築してスタートいたしました。今期は3月に設置された生産機とこれから導入される予定の生産機を中心に生産効率の向上を進めていく必要があります。新たな設備により生産プロセスの合理化や新しい技術への挑戦が可能となり、具体的な成果を上げられると感じています。また既存の生産機械を常に良好な状態にする最適化にも注力していく方針です。

機械などハード面の改善と並行してソフト面での発想転換も必要です。社会の変化に伴って仕事上の「やるべきこと」も大きく変わってきていますが、多様性や柔軟性を意識した体制づくりを行うことが必要ではないかと感じています。環境負荷低減への取り組み方をはじめ、現在求められていることをしっかり見極めながら、チーム作りや人材開発、そして環境活動を行っていくことが重要だと思っています。

気候変動やエネルギー供給などの不安要素を踏まえ、環境活動も優先順位を検討しながら積極的に実施し、社会貢献につなげていくように考えています。

代表取締役社長
池島 正英